

自然療法でセルフケア・オンライン講座 第9回

それぞれの臨床例を読み、キーポイントと思うものを箇条書きにまとめる。どのレメディーが良いか考えてみる。

例

- 右耳がズキズキ痛む
- うつ伏せになると余計に悪くなる
- 喉が全く渴かない

臨床例 1

8 歳になる男児。昨日の夕方から元気がなくなり、夕食もあまり食べなかった。9 時ごろ熱っぽいようなので測ると 38 度 5 分あった。いつもは寝相も悪く、布団をあまりかけたがらないが、昨夜は震えて、寒がり、毛布に包まっていた。12 時ごろに再び熱を測ると 39 度 3 分まで上がっていた。熱のせいか膝や足首、肘などの関節の痛みを訴えた。どの姿勢で寝ても楽にならないらしく動いてばかりいた。身体全体が乾いているようだがとても熱い。触ると焼け付くようでさえある。朝方、汗を少しかき、楽になったようだ。牛乳を飲みたがったので、コップに半分だけ温めてあげた。その後、水っぽい便（下痢）をした。

* キーポイント

レメディー：

臨床例 2

13 歳の女児が喉の痛みあり。二日前から身体の不調を訴える。喉の痛みとともに発熱、38 度 8 分ある。熱は、その後も 38 度台後半から 39 度台前半を行き来している。喉の右側が特に痛む。りんごか何かのどに詰まったような感じがする。夜に悪化する。特にベッドに入って暖まると悪くなる。また、唾を飲み込むと余計に痛む。咳が出ると痛みを余計に感じる。舌が黄色っぽく厚ぼったく汚らしく見える。金属的な味がする。口臭が絶えずある。唾液が特に夜増える。大量の汗をかく。それも夜にかく。黄緑がかった鼻水が出る。寒さにも暑さにも敏感である。

* キーポイント

レメディー：

臨床例 3

4歳の男児が1週間前に風邪を引き、熱（38度5分）、咳、鼻水などの症状があったが、4日前には落ち着きを見せていた。ところが二日前から耳を痛がるようになり、不機嫌になりぐずる事が多くなった。特に右側が痛いという。破裂するような痛みと言う。また、痛みが顔や歯に広がっている。夜や暑さで悪化し、鼻をかんでも痛い。新鮮な空気を好み、軽く動いている方が楽なようである。現在の熱は、38度台、喉の渴きはない。状態が変化しやすく、遊んでいたかと思うとぐずりだす。母親にくっついてたがる。抱っこされたがる。鼻水は黄緑がかった色で粘々している。量も多い。

* キーポイント

レメディー：

臨床例 4

25歳の女性。昨夜10時ごろより、下痢と嘔吐に苦しむ。7時ごろに友人とレストランで夕食を食べ、帰宅した頃から、胃の辺りに不快感を覚え、先ず、吐き、それから程なくして下痢が始まった。夕食は、グラタンだったという。食べているときには特に不快感はなかった。また普段から乳製品へのアレルギーのようなものはない。胃から喉にかけて酸がまわって、焼け付くようである。吐いたのは、今朝までで3回だが、吐き気は絶えずある。喉が渴くので氷水を飲んだが、飲むや否や吐いたのでそれ以降、飲み物も飲んでいない。また、最初に吐いて、30分もしないうちに腹痛に襲われ、下痢をした。水様便で酸っぱい臭いがした。真夜中から3時ごろまでが一番吐き気と下痢が強く苦しくて寝られなかった。湯たんぽをお腹の上に載せたら少し楽になった。

* キーポイント

レメディー：

臨床例 5

45歳の男性が仕事で怪我をして来院。5日前に、工場で荷崩れにあい、全身を打つ。レントゲンの結果、骨には異常がなく、打ち身と診断され、湿布剤が出たが、全身のけだるさと鈍い痛みが続いている。身体のおちおちに青あざがあり内出血が見られる。何もしなくても痛みが絶えずあるが、触られると余計に痛い。横になるとベッドが非常に硬く感じられ、休まらない。手足が非常に重くだるく感じ、動くたびに関節に軽い麻痺が起こる。

* キーポイント

レメディー：

臨床例 6

3歳の男児が咳の症状。10日前にいわゆる風邪の症状が始まった。熱は38度5分くらいで鼻水と咳が主症状だった。2、3日で熱は下がったが、鼻水と咳は変わらず、むしろ苦しくなっているように見える。日中は、それほどでもないが、夜、寝てから夜中に咳が始まり目が覚め、苦しそうにベッドに座り込む。席は痰がからんだ咳だが、痰は出ていない。大体夜中の12時ごろから始まり、3時過ぎまで咳き込んで眠れない。部屋の窓を開けると少し楽になるようだ。鼻水は、黄緑色で粘々していて大量に出ている。咳は、どうやら鼻水がのどを通るのが原因でひどくなるようだ。咳の間になみだ目になり、失禁しているようである。(夜は、オムツなので定かではない) 咳の間、胸の辺りを押さえ、痛そうな素振りを見せる。

*キーポイント

レメディー：